

港区立お台場学園港陽中学校
平成 29 年度 授業改善推進プラン

教育目標

- 自ら考え、自ら学ぶ人
- 心豊かで思いやりのある人
- 心身ともに健やかな人

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

小・中学校の9年間をⅠ期(1～4年)、Ⅱ期(5～7年)、Ⅲ期(8～9年)の3段階に分け、発達段階に合わせた指導法を工夫し、学習活動を行う。
数学科において習熟度別少人数授業を行い、英語科において習熟度を考慮した少人数授業を行う。

昨年度の成果と課題

- (成果)
- 関心・意欲・態度は高い数値を示し、思考・判断・表現(国語:話す・書く、英語:外国語表現)や技能(国語:書く、英語:外国語理解)についても上昇している。
- (課題)
- 知識・理解(国語:言語)については、引き続き、確かな理解と定着を図る。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫教育カリキュラムが円滑に実施できるように、小・中学校で時程や時間割を調整する。 ○基礎・基本の確実な定着を図るため授業時間数を十分に確保する。 ○総合的な学習の時間は、共通のテーマのもとに計画的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の生徒に合わせて、個別指導の徹底を図る。 ○言語活動を積極的に取り入れ、思考力、判断力、表現力を育む。 ○数学科において習熟度別少人数指導を行い、英語科において習熟度を考慮した少人数授業を行う。 ☆朝読書の時間をすべての学習の基礎ととらえ読書活動を充実する。 ▲ICT機器を活用した授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年度初めに、各教科の授業のねらいと評価の方法や評価項目を具体的に生徒や保護者に説明、周知する。 ○毎学期、生徒の自己評価や生徒による授業評価を実施する。結果を分析し、授業の改善・工夫を行う。 ○生徒の学習活動に対する指針や励みになるように、きめ細かい評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆お台場アカデミーにおいて、「道徳」の研究授業を実施する。 ○オリンピック・パラリンピック教育は、5つの資質向上を目指した学習を行う。 ○QUの結果を授業改善に生かす。 ▲ICT機器を活用した授業形態の工夫や学習指導案の開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動について、ホームページ、学校・学年便り等で情報発信する。 ☆PTAと連携し、学習や行事において支援を得る。 ○地域人材や専門家等の協力を教育活動に反映する。 ○生徒による防災ジュニアチームを組織し、活動する。

具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ○土曜授業等を活用し、授業時間数を確保する。 ○総合的な学習の時間は、「キャリア教育」と「環境教育」をテーマに取り組み、体験的課題解決的学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○港区・全国・東京都の学力調査を分析し、授業改善につなげる。 ○単元ごとに確認テストを実施し、きめ細かな指導を行う。 ○夏季休業中や放課後に補充的な学習を行い、基礎・基本の確実な定着を図る。 ☆各教科でICTを取り入れた授業を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習の計画と評価」で各教科の評価の方法や学習指導計画を明らかにする。 ○自己評価や授業評価の結果について、職員会議で検討し、授業改善に役立てる。 ○漢字・計算検定、スペリングコンテストで表彰を行い、生徒の学習意欲を喚起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お台場アカデミー研究会を定期的実施する。 ○オリンピック・パラリンピック教育を計画的に実施する。 ☆QUの結果を基に研修会を行い、授業改善に生かす。 ▲ICT機器の校内研修を行い、教員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆環境学習について、PTAと連携し、東京湾について学ぶ取り組みを行う。 ○発展的な学習として、専門家等による出前授業を行う。 ○職場訪問や職場体験を、地域の事業所の協力を得て実施する。 ○地域と一体に防災活動を推進する。
---	---	--	--	---

☆→今年度からの取組 ○→定着・継続している取組 ▲→活性化が必要な取組